

# 加 佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 夏休み号

平成 30 年 7 月 19 日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp



## “つまり、未来は、今なんだ。”



この 1 学期間、保護者及び地域の皆様には、子ども達を温かく見守っていただき本当にありがとうございました。お陰を持ちまして、生徒達も自分を見つめながら一つ一つ成長をしております。夏休み、子ども達は地域で過ごします。引き続き、皆様方には子ども達の健全育成に向けて、ご支援を頂きたく、よろしくお願い致します。

本校が目指す生徒像

知；真面目に考え洞察力のある子  
徳；思いやりを持って助け合う子  
体；健康でたくましく行動する子

6月23日は、沖縄戦での組織的な戦闘が終結した日とされ、毎年『沖縄全戦没者追悼式』が沖縄の平和祈念公園で開催されます。その中で『平和の詩の朗読』が行われるのですが、今年は沖縄の中学3年生が「生きる」と題した詩を発表しました。曾祖母の悲惨な戦争体験を聴き、自分で学んだことも含め平和への想いを綴っています。詩の内容もさることながら発表態度にも感心させられ、“人に思いを伝えたい！”との願いが聴き手の心を揺さぶりました。（是非ネットで当日の発表の様子を観てください。）一文を紹介します。“・・・平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯耀かせて生きることだということを。私は、今を生きている。・・・平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。・・・私は今を、生きていく。”時間軸の中で平和を捉え、今この瞬間が、未来を創るからこそ、今を大切にしなければならないと、強い思いが文に紡がれています。若者の正義に対する純粋さは、まぶしいのですが、大人も何もさぼっているばかりではなく、苦勞しながら日々を過ごしています。ただ、正直少し疲れ気味の所もあり、現状を我慢し、“何となく、こうなるだろう！”と先を読んで諦めている面もあるかもしれません。未来は今を頑張ることでしか創られないとの強いメッセージを中学生から投げかけられ“ハッ！”とした瞬間でした。

## 過去の状況だけで予測できない今後の水害の恐ろしさ！

またしても日本各地が水害に巻き込まれました。本校の生徒も床上浸水の被害に遭ったり、通学路の一部が土砂崩れを起こしたりと大変です。全国で、200名以上の方が命を落とされるとは、信じられないぐらいの悲惨な水害です。お亡くなりになった方へのお悔やみと被災された方の一日も早い復旧を願います。今回の水害は、過去のものとは、ちょっと違った恐ろしさを感じました。台風が直接影響を与えるのではなく、日本各地に同時多発的に長時間雨を降らし続けるパターンは、経験した記憶がありません。今回の被害は何か、日本の水害が新しいステージに突入したような気すらします。地球温暖化等もたらす異常気象は、地球環境を顧みない人間の生活に対する警鐘なのではないでしょうか？



校長 山口 茂  
教職員一同